

242. バセドウ病の¹³¹I治療後の血中T₃の変動

新潟大学 放射線科

原 正雄 佐藤 一明 柏森 亮

バセドウ病の¹³¹I治療後の遠隔治療成績追求にさいし
T₃-テストを行うと甲状腺機能低下症状がないにもかか
わらずT₃-テストの低値を示す例があり、しかも¹³¹I
治療後の経過年数とともにそのような症例が増加する傾
向がみられた。このような例では潜在性甲状腺機能低下
であるか血中T₃が増加しているかのいずれかと思われ
る。そこで¹³¹I治療後の症例につきT₃、T₄、T₃/T₄を測
定し、あわせて¹³¹I投与後のそれらの変動を検討した。
T₃はダイナボット製ラジオイムノアッセイキットを用
い、T₄はレゾマットーT₄キットを用い測定した。

われわれの正常はT₃は136±54ng/dl、T₄は8.9±2.8
μg/dl、T₃/T₄は1.78±0.64（いずれもmean±S.D.）
であった。

バセドウ病ではT₃、T₄とともにT₃/T₄も高値を示した。
甲状腺機能低下症ではT₃、T₄とも低値を示したが
T₃/T₄は一部の症例で高値を示した。単純性びまん性及
び結節性甲状腺腫、慢性甲状腺炎ではT₃、T₄及びT₃/T₄
は正常であった。

バセドウ病で¹³¹I治療後1ヶ月ごとにT₃、T₄、T₃/T₄
を測定した。治療の奏効した例ではいずれも漸次低下したが、
その正常に達する期間はほぼ同じであった。1回の¹³¹I投与で治癒しない例ではT₃、T₄、T₃/T₄とも若干の変動を示したが高値にとどまった。

¹³¹I治療後の遠隔成績調査例では¹³¹I投与後数年間は
T₃のやや高い例がみられたが次第に正常化し、T₃/T₄も
正常範囲にあり、¹³¹I治療後にT₃の相対的増加はみられ
なかつた。すなわち¹³¹I治療後T₃-テストが低値を示す
例では潜在的な甲状腺機能低下またはその先行状態と考
えるべきであろう。

243. 甲状腺機能亢進症¹³¹I治療遠隔成績の
検討

都立大久保病院 放射線科

木下 文雄 甲田 英一 前川 全
慶應義塾大学 放射線科
久保 敦司 小林 剛

¹³¹Iで治療した甲状腺機能亢進症858例（男139例、女
719例）について、その遠隔成績を報告し、特に¹³¹I治
療後の甲状腺機能低下症について検討し、次のような結
果を得た。

1) 治療量を定める因子である甲状腺¹³¹I摂取率は平
均65%，有効半減期5.9日、甲状腺重量は44gであった。

2) 甲状腺の吸収線量は前半7000～8000rads、後半は
4000～5000radsを目標とし、初回投与量は前半5～6
mCi、後半は4mCi前後で、投与間隔は前半は数ヶ月に1
回、後半は6～12ヶ月に1回投与し、投与回数は前半は
平均2回前後、後半は1.2～1.4回で、総投与量は前半は
7～10mCi、最近は5mCi前後が多かった。

3) 治療成績の判定は実際に患者を診療したものに限
ったが、858例中、追跡可能は、553例（64%）で、治癒
475例（86%）で、治療中は63例（11%）、死亡8例で
あった。

4) 甲状腺機能低下症の頻度は1年後1.3%で、3年
後2.7%、5年後4.1%、10～12年後13.8%、13～15年
後21.5%、16～20年後26.5%と経過年数に比例して機
能低下症は漸増した。

5) 機能低下症の漸増はTriosorbの正常範囲を23～
25%とすると、上述の機能低下症の頻度とはほぼ一致する
が、TSH値の正常範囲を2～8μU/mlとすると8μU/ml
以上を示す症例は1～3年後21%，4～9年後51%，10～
14年後68%，15～20年後85%と高率な機能低下値を示
した。T₃値、T₄値は15～20年後では前者は0.8ng/ml
以下50%，後者は4μg/dl以下39%で、臨床症状など
による総合判定とTSH値の高値率との中間の値を示
した。

6) 白血病、甲状腺癌は1例もなく、¹³¹I治療後生誕
した126例の子供は性差なく、1例の心房中隔欠損を除
いて全例健康であった。